

# 令和3年度 第2回 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和4年3月24日（木）午後2時～午後3時40分

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者

荒尾市長	浅田 敏彦
荒尾市教育長	浦部 眞
荒尾市教育委員	旭田 國浩
荒尾市教育委員	渡邊 義専
荒尾市教育委員	深浦 淳美
荒尾市教育委員	谷本 ひとみ
(オブザーバー) 副市長	田上 稔
(事務局職員) 総務部長	石川 陽一
文化企画課長	中山 創
総合政策課長	田川 秀樹
総合政策課政策推進室長	奥村 猛
総合政策課政策推進室	丸本 真由子
教育審議員兼学校教育課長	村上 豊優
教育次長兼教育振興課長	橋本 張幸
学校教育課指導主事	溜渕 知昭
学校教育課指導主事	米村 光生
生涯学習課長	宮脇 浩司

4. 傍聴者 無し

## 5. 議事

- (1) 次期教育大綱の策定について
- (2) 令和4年度新規（拡充）事業について
- (3) 新図書館の活用について
- (4) 学力向上について

## 6. 議事経過の概要

以下のとおり

### ○議事経過の概要

#### 1. 開会

田川総合政策課長が、開会の宣言、配付資料の確認を行った。

## 2. 市長挨拶

浅田市長が、挨拶を行った。

### ＜挨拶要旨＞

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症が拡大し、特に子どもたちにも感染が広まり、学級閉鎖や学年閉鎖をすることで、家庭においても保護者の方にご心配やご不便をかけている。皆様の感染防止に対するご協力に感謝申し上げます。また、子どもたちの学びの保障のために様々なご苦勞をされている先生方にも、重ねて感謝申し上げます。
- ・浦部教育長におかれては、任期満了に伴い、昨日の市議会において再任の同意をいただいたところであり、ぜひまた3年間よろしくお願い申し上げます。
- ・市長として就任し5年が経過した。公約において、政策の基本的な考え方の中でも最重要視するものとして、教育や子育て支援等の「人づくり」であると申し上げた。また、医療、介護、防災等の「安心づくり」と併せて政策の軸にし、それらを支える経済も活性化させる。段階的に1つずつやっていくのではなく同時に進めていかなければ1つの構造にならないため、特に教育はしっかり力を入れてきたところである。
- ・次年度は、新学校給食センターが9月から給食の提供を開始する。本市の公共施設は古い施設が多いが、まずは市民病院の建替えを優先して取り掛かり、続いて、子どもたちに安全でおいしい給食を提供することが責務である給食センターの建替えに取り掛かった。特に長洲町と共同で整備することで、様々な面で利点があった。アレルギーを持った子どもたちに対しても優しい給食センターになり、完成を楽しみにしている。
- ・市立図書館をあらおシティモール内に移転し、4月1日にオープンを迎える。ゆとりのある空間の中で質の高い図書館が本市に実現するというので、こちらも非常に楽しみにしている。本を読むことは人づくりであり、ぜひ本好きの人々が増えることを願い、本のまち・文化のまち荒尾になるよう、余所にはない図書館にしていきたい。
- ・また、本日の会議において、教育の指針となる教育大綱について、承認をいただきたく、よろしくお願いしたい。

## 3. 議事

### (1) 次期教育大綱の策定について

資料1及び参考資料に基づき、荒尾市教育大綱及び第2期荒尾市教育振興基本計画の位置づけ、体系図、基本理念等について、田川総合政策課長が説明を行った。

意見交換後、浅田市長からの、教育大綱を原案のとおり「郷土を愛し未来を創る あらおの人づくり」と決定していかという問いに対し、委員全員から承認を得た。

<主な意見等>

- |      |  |
|------|--|
| 旭田委員 | 前回の教育理念を踏まえ、次は未来を目指していくという思いが文面に表れており、案の内容に賛成である。  |
| 渡邊委員 | 我が子も今年卒業を迎え、先生が作られた1年間の学校生活の動画を見させていただいたが、先生方は素晴らしいことをされていると感心した。生徒を教えて導いていくことが人づくりであり、それが未来を創ることだと感じたため、良い言葉だと思う。   |
| 深浦委員 | この言葉には思いが詰まっているなと感じた。基盤となる考え方の「②教育DXの加速化」とあるが、横文字は注釈がないと意味が伝わりにくいため、誰が見ても分かるよう他の言い方にできないだろうか。<br>また、教育に関する計画であるため、基本的施策の一番上に「確かな学力の育成」がくるのは当たり前だとは思いますが、人づくりという観点からは、「豊かな心・健やかな体の育成」が上にくるといいなと思ったところではある。  |
| 谷本委員 | 市長の人柄が表れている優しい言葉であり、素晴らしい概念だと思う。1人1台のタブレットを持ち、ICT教育が進む中、先生方の負担が気になるところではあるが、平等な教育が受けられることは良いことだと思う。また、基盤となる考え方の中で、「障がいのある児童生徒にも配慮しつつ」という文が出てくるが、先日の新聞で、特別支援学級に通う子どもたちの様子が載っていた。人数も掲載されており、昔と比較すると多くなってきているが、そのような子どもたちにも配慮し、全ての子どもが平等に授業を受けられる荒尾市が素晴らしいと思った。 |

(2) 令和4年度新規(拡充)事業について

資料2及び資料3に基づき、次年度の事業概要やこれまでの教育費の推移について、浦部教育長が説明を行った。

<主な意見等>

- |      |  |
|------|--|
| 深浦委員 | 荒尾第三中学校に設置されているハートフルルームを、残り2つの中学校にも設置していただけるということで、非常にありがたい。家庭の中で居場所がなく、学校があることで救われている子どもたちがたくさんいるため、フリースクール |
|------|--|

	は重要だと思っている。
旭田委員	海陽中学校及び荒尾第四中学校に配置する指導員の先生は何名の予定か。
浦部教育長	現在、第三中学校に2名配置しており、海陽中学校、荒尾第四中学校についても2名ずつの配置を予定している。
谷本委員	人員について心配していたが、退職された教職員の先生方等が手を挙げられると聞いたので安心した。
浦部教育長	指導員の先生方については、教員免許を持っている方やこれまでに経験がある方などを見つけているところである。
浅田市長	ハートフルルームの設置は、子どもたちの居場所づくりにつながっている素晴らしい事業であり、成果も出ているところではあるが、ハートフルルームの先生だけが全ての子どもたちを温かく迎えるのではなく、その他の先生方も含めて、学校全体で全ての子どもたちを温かく迎え、問題があれば改善していくような学校ぐるみの支援をしていただきたい。
浦部教育長	荒尾第三中学校に設置することになった当時の校長が、一人一人に温かい目を向ける、そして居場所をつくるという目標を掲げられた。学校全体で見守って育てていくため、先生方の意識を変える大きな役割ではないかと話していた。このような学校ぐるみの雰囲気づくりを基盤として、ハートフルルームをつくっていききたいと考えている。
渡邊委員	荒尾市出身トップアスリート交流事業やロアッソ熊本交流事業のように、子どもたちがプロのスポーツ選手と触れ合えることはすごく良いことだと思う。子どもたちのキラキラした姿が目に見える。実際にプロの方から話を聞いたり、スポーツを学ばせていただける機会というのはすごく良いことで、これこそ未来をつくる子どもたちを育てる教育だと言える。
旭田委員	フリースクール事業に話は戻るが、中学校で不登校になるということは小学校のときに予兆があるのかもしれないため、ぜひ小学校からのケアもお願いしたい。
浅田市長	補足として、教育予算ではないが、子どもにかかる施策に関連して新規事業を紹介したい。現在、本市にはおもやいタクシーという、市内どこでも乗降でき、市民だけでなくどなたでも、朝8時から夕方5時まで運行している相乗りタクシーがある。非常に好評で利用者も増えてきているところだ

が、次年度、このおもやいタクシーで、夕方子どもたちの習い事や塾等の送迎に利用できるように実証実験を行う。皆さんから様々なご意見をいただきながら事業化すべきかどうか判断したいと考えている。

旭田委員 教育予算については、私が教育委員になった平成 28 年度は 9 億円程の予算だったのに対し、令和 4 年度は倍以上の予算をつけていただき、一市民として非常に感謝している。以前、ICT 機器の予算の割合が県内で最下位だったが、その頃からすると、教育に力を入れていただいているのがよく分かる。

浅田市長 ICT 教育については、文部科学省が GIGA スクールを打ち出す前から、本市では桜山小学校をモデル校として、授業に ICT 機器を取り入れて効果を検証してきた。その成果として、ICT 教育が子どもたちの自信につながったことがはっきり数字に表れていた。その研究成果から、本市としては ICT 教育を進めるべきだという方針のもと、段階的に整備していたところ、文部科学省が GIGA スクールを打ち出してくれたため、一気に導入することができた。また、研究成果があったからこそ、授業にどう活用すれば効果的かということも、ある程度把握できており、そのノウハウが他の学校や先生方にも広がりやすかったと思う。

### (3) 新図書館の活用について

資料 4 に基づき、新図書館と学校教育の連携について、浦部教育長から説明を行った。

#### <主な意見等>

深浦委員 児童生徒へ ID を発行というのはどのような意味か。  
→電子書籍を利用するにあたり、通常は図書館の会員になり ID の発行が必要であるが、それとは別に、各学校に対して児童生徒全てに ID を発行する形になる。(宮脇課長)

渡邊委員 岱志高校との連携は何か出来ないか。  
→新図書館の開館に合わせて、展示スペースに岱志高校の美術コースの生徒さんたちの作品を展示することとしている。今後も、高校側から相談があれば対応していきたいと考えている。(宮脇課長)

浦部教育長 まずは開館時に合わせてということだが、単発で終わることなく継続して連携していきたい。

谷本委員 新図書館を学校ごとに社会科見学が出来る機会があれば良

	い。 →以前の図書館も学校ごとに見学に来てもらっていたが、新図書館についてもまずはオープンにあたり、事前に市内の小中学校の校長先生方に見学していただいております。素晴らしい図書館だとの感想をいただいております。見学については従来通り対応していく。(宮脇課長)
浅田市長	ぜひ多くの方に利用していただきたい。先程、フリースクールの話があったが、家でも学校でもない第三の場所として、図書館を利用していただくのもいいと思う。
旭田委員	未就学児が利用できるスペースもあり、どの年代の方にも利用してもらえる図書館になっていると感じた。
浅田市長	小さい頃から本に接した子どものほうが想像力や感受性が強く、国語が得意になると他の教科にも良い効果が出てくるようになり、本の効果は非常に大きいと感じている。新図書館は、本市の魅力の1つになり、ひいてはそれが移住定住につながることを期待している。
浦部教育長	図書館が様々なところに波及して良い効果をもたらし、最終的には良い荒尾のまちづくりができるようにしていきたい。
浅田市長	1つ要望として、新図書館のデジタルライブラリーにおいて、本市の古い写真等をデータ化したものを流すなど、荒尾の歴史を多くの方に知っていただけるように検討していただきたい。歴史を大切にしながら現代に活かしてほしい。
浦部教育長	指定管理者と相談し、取り組みたい。

#### (4) 学力向上について

資料5に基づき、全国学力調査の結果や学力向上に対する取組について、浦部教育長から説明を行った。

#### <主な意見等>

浅田市長	学力について、気になるのは中学校の学力である。今年度から導入された学力向上重点支援地域視点事業とは、具体的などのような取組がされているのか。
浦部教育長	玉名教育事務所に専門の学力向上アドバイザーがいる。その方が週1～2回各学校を訪問し、授業を見て授業の良かったところや改善すべきところを指摘・指導していただき、2回程見られて授業が改善されているか比較をしながらアドバ

	イスをいただいている。
浅田市長	ノウハウについても教えてもらえるのか。
浦部教育長	県が「熊本の学び」というプランを推進しており、それが本市の推進する「進化型あらおベーシック」と共通するところもあるため、その点を理解した上での、基礎的なところから指導いただけている。
浅田市長	先生方は異動があるが、新しく来られた先生方に進化型あらおベーシックはご理解いただけているか。
浦部教育長	毎年、年度初めに若手の先生方に集まっていただき、進化型あらおベーシックの説明をしている。他市町村でも本市と同じような授業スタイルを取り入れてきている自治体もあるため、本市で学んだことは他自治体へ異動したあとも役に立つ。
旭田委員	中学校の学力低下については、小学校の成績上位者が市外の中学校を受験している状況であるが、小学校のうちから先生方が子どものやる気を出させることが出来れば、市内の中学校も成績が上がるのではないかと。
渡辺委員	小学生で中学受験のために塾に通う子どもたちがいることから、小学校の学力は上がる。しかし、その子どもたちが中学受験することで、公立の中学校の学力は下がる。更に近隣の公立高校も定員割れしている状況であり、受験勉強しなくても公立高校に合格することができるという考えが、おそらく中学校の中で蔓延してきているのではないかと。今の中学生に必要なことは、何のために勉強するのか、なりたい仕事に就くためにはどのような勉強をしたらいいのかなど、キャリア教育をしていくと、勉強する子どもたちが増えていくと思う。
深浦委員	子どもの学習意欲の背景には、家庭内の状況もあって勉強が手につかない子どもたちもいると思うため、成績が急に落ちた児童生徒に対しては、先生方にその子の家庭環境などの背景に気づいてもらえるよう取り組んでいただきたい。
浅田市長	先生方が多忙であることから、家庭のフォローまで出来る余裕がないのだと思われる。校務支援システムの導入により、先生方の業務負担はどのくらい軽減されてきているのか。
浦部教育長	校務支援システムについては今年度から使用しているが、業務が激減するまでには至っていない。通知表や書類の作成で

は効果が出てきており、もう少し使いこなしていければ、業務負担は大幅に削減されると考えている。

浅田市長 部活動に関して、先生方はどのようなご意見をお持ちか。

浦部教育長 部活動を生徒指導の一環として考えている先生もいれば、専門外なのになぜしなければならないのかという消極的な先生もいて、先生方の中で温度差はある。現在、長洲町と南関町では、土日の部活動を外部のクラブチームに任せるというモデル事業を行っている。その成果を参考に、本市でも今後の土日の部活動のあり方を検討していく。

田上副市長 本日、教育大綱を議論いただき、今年度末に教育大綱及び第2期教育振興基本計画を策定するが、本市の教育に関する向こう5年間の指針を定める、非常に大事なときを迎えているという認識を持っている。もうすぐスタートするため、随時見直しをしながら本市の教育を形作っていく必要がある。その中の1つである「あらおベーシック」は、取り組み始めて5年程経過し、今年度から進化型になった。教育の効果は長い時間を要するものではあるが、ある程度一定の期間で評価し、このまま続けるのか見直すのかの判断をしないでならない。また、県立高校である岱志高校の生徒数が伸び悩んでいるが、小学校、中学校、高校という教育の流れの中で、本市に県立高校が存在しているという意味合いは非常に大きいと感じている。市としても様々な支援を考えているが、そのレベルでは追いつかない程、生徒数の減少が進んでいる状況であり、もっと深い支援をしなければならないと感じている。県立であるため出来ることは限られているが、その中でも市として何が出来るかということは考えていかなければならない。  
以上の3点、教育大綱、あらおベーシック、県立高校のことが教育に関する懸案事項だと感じている。

浦部教育長 岱志高校については、市教育委員会の所管外ではあるものの、義務教育だけで終わることなく、高校まで切れ目なく支援していく必要があると考えているため、次年度も総合政策課とともに取り組んでいきたい。

#### (5) その他

本日の議事以外について、意見交換を行った。

#### <主な意見等>

渡邊委員 今年度、今後の土曜授業の実施についてどのようにするかというアンケート調査があり、その結果を見せていただき、普



段、先生方がどのように考えておられるかを知った。教育現場の最前線に立つ先生方の声を集められるような場があったがいいのではないかと感じた。

#### 4. 閉会

田川総合政策課長が、閉会の宣言をした。